

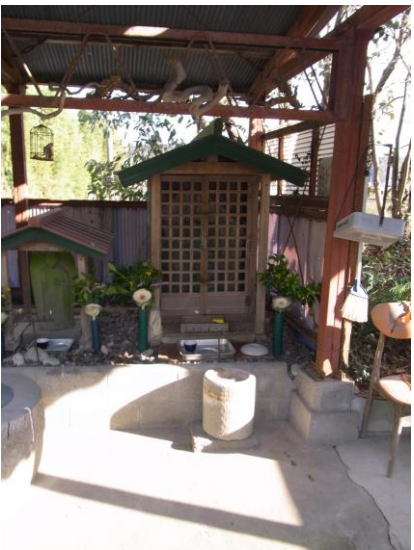
よぬだ ところどころ



第三十五号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

東栃井の「追上」（おいあげ）と為岡の追上（おいかみ）



元々一つの地名であつたと思われる。しかし、漢字は同じでも読み方は違う。為岡・東栃井の土地は、南から北にかけて比高を増すが東栃井と為岡で同じ高さとなる。北は飛騨川に対して段丘崖となり、現在は川辺ダムの湖水面に接する。ここには米田用水を取水するポンプ場があつた場所である。木曾川右岸用水の完成により役割を失つたが、ここからくみ上げられた用水は、食料の増産に多大な貢献をしたことが知られる。河岸段丘の端にあたり、南に低くなつていくので天水のほかは水は期待できない。東栃井は天満神社と為岡には神明神社が鎮座する。天満神社は菅原道真が祭神であり、雷神による降水を期待するものと考えられる。また、神社のそばに墓があるがこの墓は川辺ダムが完成したため水没する墓を移転したものとされている。

写真 ポンプ場跡の横にある「龍神社」龍は「水神」であり、「水をはき出す」という様から祀られたと思われる。まったく新しいものであり、ポンプ場完成とともに祀られたと推測できる。

追上」の再考 小地名に、「追」うという字をあてているが、「負う」という内容をもっていたかも知れない。地名は発音が先で、漢字は好字が当てられる。「背負う」という状態が示されているならばそういう解釈も妥当である。東栃井や為岡からは比高が高くなり、農業用具などを持って行くのに「背負う」という状態が予想される。「背負いあげる」という内容で「追いあげ」に転化したと考えることはどうであろうか。

注 空中写真は上部飛騨川沿いが東栃井、その右が為岡

